

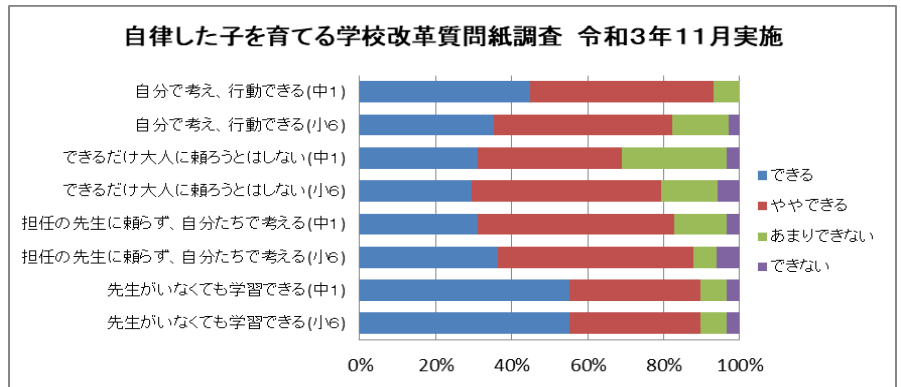
# 中央小が取り組む教育チェンジ “複数学年複数担任制”の成果と課題

中央小学校では、令和2年度より、4年生以上の学年において、固定した学級担任ではなく、複数の先生が担任するシステム“複数学年複数担任制”を導入し、より多くの教員によって多面的な理解を図り、複数で支援するとともに、自分達で考え、行動する機会を増やす取り組みを行っています。約2年を経過し、成果と課題が見えてきましたので、ご報告いたします。



**【成果】 自分で考え、行動できる子が増えてきています。**

学習だけでなく、学校生活の中では、自分（自分達）で考え、行動している子が増えてきています。もちろん、失敗や間違いもありますが、まずは先生に頼らず、自ら考え、判断しようとする場面が多くなりました。先生達も、自分で考え行動したことを大切にする指導を行っています。



中1は本システムを1年間、小6は2年間経験しています。

**【課題】 自分で考えたり、判断したりすることが苦手な子もいます。**



困ったことがあれば何でも相談するように話していますが、何に困っているか、どのように考えていいのかわからず、戸惑っている子がいるのも事実です。担任チームがこれまで以上に注意深く見守り、アドバイスしていく必要があります。ご家庭で不安に思われたら、担任までお伝えください。

**【成果】 先生によって態度を変える子が減っています。**

学級担任制だった時は、担任の先生が話すことは素直に聞いても、他の先生の話には耳を傾けない子がいました。それは、話の内容ではなく、誰から言われているのかを気にして、自分事として考えていない証拠です。しかし、今はほとんどの子がいろんな先生の話に耳を傾けています。まだ行動の変化として表れていないかもしれませんが、より多くの人のお話に耳を傾けられる子は必ず成長します。

**【課題】 同じ先生に指導してもらいたい子もいます。**



同じ先生と生活する方が安心でき、心が安定する子もいます。いろんな先生からの話は、ストレスに感じてしまう子もいるでしょう。その傾向は低中学年に多く見られます。そのため、4年生から始まるこのシステムに戸惑う子もいたと思われます。来年度の3、4年生は、学級担任を固定しつつ、複数指導体制をとるようにします。

裏面に続く

**【成果】 多くの先生による多面的な理解が進み、チームで対応しています。**

「一人の子をみんなで育てる」。これまでスローガンのようになっていたことが、現実のものとなってきています。児童理解は一様ではありません。人によって見方は変わり、その評価も変わります。そのため、互いの先生が感じたことを話し合うことは重要であり、毎週1回高学年担任の会議を開き、情報共有を行っています。そして、職員室で子どもの様子をもとにした話はとても多くなっています。こうしたことにより、担任一人で子どもの問題を抱え込むことはなく、チームで対応しています。

**【課題】 情報共有のスピードと一人の担任が把握できる量に限界があります。**

教科を分担して指導すると、子ども達の1日の変化には気づきにくくなっています。休み時間に気が付いたことを他の先生に伝えようとしていますが、うまくつながらないこともあります。そのため、情報共有ボードやICT機器を活用した情報共有を充実させます。

また、学級担任の時のように多くの教科を指導しないため、子どもの状況把握の量が少なくなります。できるだけ複数年で担任し、情報の蓄積を図っていきます。ただ、一人の担任が把握しているお子様の情報には限界がありますが、チーム全員の先生の情報を合わせると、かなりの量になると考えています。



Tルーム(高学年ミニ職員室)

**【成果】 子ども達は多くの先生とかかわることを楽しんでいます。**

昨年11月に実施した「自律した子を育てる学校改革調査」の自由記述欄をみると、9割程度の子ども達が“複数学年複数担任制”を肯定的にとらえていました。卒業生の中1生からは、以下のような感想が寄せられています。

いいと思います。今は担任の先生が小学校の時と違って変わらなから担任の先生に相談することが多いけど、相談する人がたくさんいることいいと思います。それに、いろんな先生がいていろんなやり方があることに慣れることができるのでいいと思います。

一人の先生じゃなく五人の先生だから、一つのからかんでではなく、五人の先生の様々からかんで学べたり、しめたりするからいいと思う。

相談できる先生が自分で選べて、自分がはれる人が5人もいるので、とても安心です。これからつづけてほしいと思います。

・いろいろな先生がいることで、自分がそうたしやすいい先生を見つけることができますので、いいと思いました。  
・中学校であまりかわらなからたので、ふたんかすくないと感じました。

**【課題】 担任との他愛もない会話の時間が減っています。**

指導教科を分担しているため、1日の中で同じ学級を指導する時間は少なくなりました。また、連続した授業時間の指導も少なく(理科、図工科、家庭科を除く)、5分間の休み時間、先生は次の教室へ移動してしまいます。そのため、他愛もない会話をする時間は、朝の登校時、業間休み、給食、お昼休みだけになっており、この時間を大切に使う必要があります。



ホームルーム担任との朝の時間

これらの成果と課題を受け、来年度は、次のような担任システムにしていきます。

3,4年生・・・1人の教員が1クラスを学級担任し、一部の教科で教科担任指導を行います。

5,6年生・・・5人の教員が教科担任指導するとともに、5人による複数担任制を継続します。